

保健指導からみた諸問題：子どもの発達と母子関係の継続的考察

— 2) 1歳6か月児の状況と心理相談所見の内容分析 —

研究第5部 望月 武子
保健指導部 盛 富美
同上 河西 恵子

要約

1. 9か月から引き続き1歳6か月の心理相談を受けた794名について、母子の問題を把握した。1)問題無し76%、発達上の問題9%、行動上の問題10%、養育の問題14%があった。2)育児意識との関連でみると、養育上の問題の背後には子どもにうまく対応できなかつたり、育児に不安や負担感をもつ母親の状況がうかがわれた。

2. 心理相談で問題を疑われた188名について、その内容を分析した。1)発達面では言語発達の遅れ47%、表出言語の遅れ40%が目立ち、言語の問題が主であった。2)行動面では、多動で他と関わりにくい40%、情緒不安定31%、分離不安24%が目立っていた。3)養育上の問題では、母子交渉の不足33%、焦り不安29%、過干渉26%が目立った。

4)養育内容と子どもの問題を関係づけてみると、過干渉は多動と、焦り不安は情緒不安定、多動と関連がみられ、母子交渉の不足は言語発達のほか、多動、情緒不安定などとも関連がみられた。5)養育と子どもの問題は、相互に原因となり結果となって悪循環を招くおそれがある。早期の関係調整、助言指導により改善する可能性は大きいと考えられる。

見出し語：1;6 健診、心理相談、発達・行動・養育上の問題

Problems from the viewpoint of the Health Guidance

Continuous Research in Child Development and Maternal and Child Relationship

— 2 Situation of Children at 1.5 Year of Age and Analysis

on the Content of the Views on Psychological Guidance —

Takeko MOCHIZUKI, Fumi MORI, Keiko KAWANISHI.

1. We grasped maternal and child problems of 794 pairs who had been continuously taken our psychological guidance from 9 months till 1.5 years old. 1) Distribution was developmental problem:9%, behavioristic problem:10%, child rearing problem:14% and no problem:76%. 2) Situation of mothers who could not treat their children adequately or who felt anxiety and excessive burden on their child rearing was observed in them who had somewhat child rearing problems.

2. We analysed content of psychological problems of pairs who were suspicious of having somewhat problems through our psychological guidance. 1) As for developmental problem, retardation in verbal development:47% and retardation in verbal expression:40% occupied most of them. 2) As for behavioristic problem hyperaction and difficulty of personal contact:40%, emotional unstability:31% and separation anxiety:24% occupied most of them. 3) As for child rearing problem, lack of maternal and child interaction, 33%, impatience and anxiety:29% and overintervention:26% occupied most of them.

Key words : Health examination of the 1.5 years of age, Psychological guidance.

I 目的

昨年度 0:9~0:10時の心理相談を受けた1000名について、ひき続き 1) 1:6 時点の実態を把握して、子どもの発達や行動及び養育態度に影響を及ぼす条件を探り、子どもの健全な発達を促進する養育のあり方を検討する。

2) 1:6 時の心理相談で経過観察を要した事例についてその内容を詳細に分析、検討することにより、子どもの発達や行動の問題生起に関わる母子関係や養育のあり方を明らかにしようとした。

II 方法

1) 1:6 時の心理相談では、発達スクリーニングテスト行動観察、言語発達スクリーニングテストを実施して、発達や日常の母子交渉を知る手がかりとしている。これらのテスト結果や相談所見から、母子の問題を総体的に把握して、これを背景にある条件、0:9 時の心理相談所見及び母親の育児意識などとの関連を分析した。対象は 0:9 時よりひき続き 1:6時の心理相談を受けた 794名 (男児410, 女児384)である。

2) 心理相談で経過観察を要した 188名 (男児106, 女児82) について、指導的な視点からさらに詳細に内容を把握するため、発達上の問題5、行動上の問題12、養育上の問題12のカテゴリーを設定しこれに基づいて分類、整理した。そして、子どもの発達及び行動上の問題と母子関係、養育上の問題とを関連づけて分析した (分類項目は表5を参照)。また、0:9 時の問題経過を確認した。

III 結果及び考察

1. 1歳6か月時の状況

1) 1:6時の心理相談所見とその背景

1:6 時の心理相談所見は表1の通りである。これを背景の条件 (性別、出生順、母親の年齢、学歴、職業、育児以前に子どもに接した経験、祖父母の同居、出生時の問題) と関連づけて分析し、有意差のみられた条件のみを表示した。性別では、発達上の問題が男児に多く、出生順に関しては発達、行動面で第3子に問題の割合が高くなっていった。育児以前に幼い子どもに接した経験の有無では、未経験の親の方に問題が多い傾向がみられ、とくに養育上の問題が多かった。出生時の問題に関しては在胎37週未満、出生体重2500g未満で生まれたものに発達上の問題が多くなっており、1:6 時点では未だその影

表1 1歳6か月時の心理相談所見とその背景との関連

心理相談所見		問題なし	発達上の問題	行動上の問題	養育上の問題	基本数
全体		605 76.2	74 9.3	80 10.1	114 14.4	794
* 性別	男児	303 73.9	51 12.4	53 12.9	59 14.4	410
	女児	302 78.6	23 6.0	37 9.6	55 14.3	384
*** 出生順	第1子	394 75.0	47 9.0	58 11.0	83 15.8	525
	第2子	191 80.9	19 8.1	14 5.9	27 11.4	236
	第3子	20 60.6	8 24.2	8 24.2	4 12.1	33
*** 子どもに接した経験	有り	338 81.1	31 7.4	32 7.7	41 9.8	417
	なし	236 70.2	38 11.3	43 12.8	66 19.6	336
*** 出生時の問題	問題なし	545 76.8	58 8.2	76 10.7	104 14.6	710
	37週未満	14 60.9	7 30.4	2 8.7	2 8.7	23
	2500g未満	31 66.0	12 25.5	2 4.3	3 17.0	47
	未満					

*: p< 0.05 ***: p< 0.001

表2 9か月時の心理相談所見との関連

0:9 時	1:6 時	問題なし	発達上の問題	行動上の問題	養育上の問題	受診せず
問題	87.6	560	53	53	75	186
なし	87.6	63.9	6.1	6.1	8.6	21.2
発達上の問題	4.3	12	10	12	13	7
養育上の問題	9.8	37	16	22	31	17
	9.8	38.1	15.5	22.7	32.0	17.5

p < 0.001

響を残していた。なお、在胎37週未満で、かつ出生体重2500g未満のものは16名あり、このうち発達上の問題は6名 (37.5%)で、やや高率になっていた。

2) 0:9 時の心理相談所見との関連

0:9 時の心理相談で経過観察を要したものが 1:6時にどのような状況にあるかみるため、0:9 時と1:6 時の心理相談所見を関連づけてまとめたものが表2である。0:9 時に問題なしとされた群に比べ、発達上、養育上に問題ありとされた群に1:6 時でも問題ありの割合が高く、

$p < 0.001$ で有意差が認められた。

なお、0;9時に発達上の問題が疑われ1;6時で問題なしとされたものが12名あるが、この内容は寝がえり、おすわりが出来ないなど運動機能の遅れが7名、模倣の発現がみられず対人反応の弱かったもの2名、早産、低体重で発達にやや遅れがみられたもの2名、その他1名であった。また、養育上の問題が疑われたが1;6時で問題なしとされた37名では、母子交渉の不足10名、兄姉に視点が向き本児への対応が不十分であったもの8名、母親の不安やとまどい7名、祖父母との意見の不一致5名などであった。

3) 言語発達スクリーニングテストとの関連

心理相談所見と言語発達スクリーニングテストとの関連をみたものが表3である。発達上の問題で経過観察されたもののうち、理解言語では46%、表出言語では74%に言語発達の遅れがみられており、この時点の発達上の問題として言語発達が大きな位置を占めている。

なお、背景の条件と関連させて言語発達に影響を及ぼす要因を探った。有意差 ($p < 0.001$) がみられた条件は、性別では表出言語で女兒の発達が優位であり、出生順では1、2子に比べ3子が理解、表出言語ともに遅い傾向

表3 心理相談所見と言語発達
理解言語

	良好	普通	M-1SD	-1.5SD	M-2SD
問題なし	309 51.7	265 44.3	20 3.3	4 0.7	-
発達上の問題	6 8.2	33 45.2	9 12.3	22 30.1	3 4.1
行動上の問題	28 36.4	36 46.8	4 5.2	8 10.4	1 1.3
養育上の問題	37 34.3	52 48.1	8 7.4	11 10.2	-

表出言語

	320 53.4	244 40.8	33 5.5	- -	1 0.2
問題なし	3 4.1	16 21.9	24 32.9	22 30.1	8 11.0
発達上の問題	32 41.6	37 48.1	5 6.5	2 2.6	1 1.3
行動上の問題	37 34.4	56 51.9	10 9.3	3 2.8	2 1.9
養育上の問題					

がみられた。

在胎37週未満、出生体重2500g未満で出生したものはいずれも表出言語に遅れがみられていた。

4) 育児意識と心理相談所見との関連

心理相談所見を0;9時に調査した育児意識と関連させてみたものが表4である。

これらの項目から問題の生起する背景にある母親の気持や状態をみることができ、相談、支援の方向が示唆されていると考えられた。

表4 育児意識と心理相談所見との関連

	心理相談所見	発達上の問題	行動上の問題	養育上の問題
0;9時の育児意識				
3) うまく育っているか気がかり				*
4) 子どもの活動に制限が多い			***	***
7) 他の子とふれあうことが少ない	***			*
8) 子どもの要求がわからず戸惑う				*
10) 子どもと上手に遊んでやれない	*		*	
11) 育児は大変だと負担に思う				***
12) 育児に自信がなく不安に思う				***
15) 家族の意見がくいちがう				***
16) 近所に話し合う人がいない	***			

2. 心理相談所見の内容分析

1) 発達、行動上の問題の内容

発達、行動上の内容を詳細にみたものが表5（上段）である。発達上の問題では表出言語の遅れも含めて言語発達の遅れが87%を占めていた。表出言語の遅れは男児26（86.7%）女児4（13.3%）で、男児に著しく多い。

表出言語の遅れ30名を養育態度との関連で見ると、このうち20名は問題が認められず、20名中19名までが男児であることから考えて、男児にみられる個人差としての表出言語の遅れを内包した結果と考えられる。

行動上の問題では、多動、他と関わりにくいものが最も多く、これは言語発達の遅れと強い関連がみられた。次いで、情緒不安定（過度のかんしゃく、恐れ、退行など）分離不安（人みしり、新しい場や人への不適応を含む）が目立っていた。

行動の内容に性差はみられなかったが、出生順に関しては第1子に多動、他と関わりにくい、第2子に情緒不安定の割合が高い傾向がみられた。しかし、例数が十分でないので、今後ケースを追加して検討することが必要である。

2) 養育上の問題内容

養育上の問題の詳細を表5の左側に示した。母子交渉の不足が最も多く、次いで、焦り不安、過干渉が目立っていた。母子交渉の不足は、日常的な決まった世話はきちっとやるが、子どもといっしょに遊んだり、楽しんだりすることが少ない場合が多い。

出現率は低いが、母の感受性とした内容は子どもの要求や行動を感じ取ることが困難なもの、拒否とした項目は子どもを受容できないもの、精神衛生としたものは母親自身の精神的な問題であるなど、母親のパーソナリティーに関わる内容が4位、5位を占めていた。

養育上の問題を背景の条件と関連づけてみると、過干渉は男児(12、18%)に比べて女児(22、34%)に多く、また、第1子(29、22%)は第2子(4、10%)第3子(1、8%)に比べてその割合がやや高かった。母子交渉の不足は第1子(18、14%)に比し第2子(20、48%)第3子(5、38%)に高率であった。また、高年齢、職業をもつ母親に多い傾向がみられた。

3) 養育内容と発達、行動上の問題

表5により、養育内容と子どもの発達、行動との関係を見ると、過干渉は多動、他と関わりにくい行動と、焦り不安は情緒不安定や多動、他と関わりにくい行動との関連が高く、母子交渉の不足は言語発達と強い関連をもつほか、多動、情緒不安定などとの関連も高かった。

養育内容と子どもの発達、行動との関係は、相互に原因となり結果となるものであり、場合によっては悪循環

をきたし、子どもの発達や母子関係をさらに歪めるおそれをもつものと考えられる。

また、母子交渉の不足は子どもの発達、行動上の問題に広く関係していて、この時期の子どもの精神生活に大きな影響をもつものである。いずれも早期の関係調整を要する問題と言えよう。

4) 9か月時の問題の経過

0;9時の心理相談で養育上の問題を疑われた98名中、52名は母子交渉の不足(兄姉へ目を奪われて本児への対応が不十分なものを含む)であり、最も多かった。この問題が1;6時にどのような影響を及ぼしているかを検討した。継続して1;6時に受診したものは42名であり、このうち17名は問題なしとされたが、残り25名はひき続き問題の存在を疑われた。

その内容は、子どもの発達面で11名のうち言語発達の遅れ4名、表出言語の遅れ5名があり、言語発達への影響が大きかった。

行動上の問題14名のうち、多動、他と関わりにくい行動を示したものが10名あり、母子交渉の不足が子どもの問題を生じやすい領域を知ることができ、乳児後期からの相互交渉の重要性が浮き彫りになった。

この25名の養育態度ではひき続き交渉不足を問題にされたものが15名と多く、子どもの行動に伴って焦り不安な対応をするもの5名、過干渉になったもの4名があった。

表5 養育上の問題内容と発達、行動上の問題内容

子どもの問題		発達上の問題 N=76				行動上の問題 N=104							
		全体 発達	運動 機能	言語 発達	表出 言語	多動 かぶり	情緒 不安	分離 不安	習癖	食事 問題	睡眠 問題	友達 関係	兄弟 関係
養育の問題	N	10	1	36	30	42	32	25	4	4	7	2	1
N=131	%	13.2	1.3	47.4	39.5	40.2	30.8	24.0	3.8	3.8	6.7	1.9	1.0
過保護	4 3.1			1				2	1				
過干渉	34 26.0			3	2	13	6	2					
拒否	8 6.1			2	2	1	3		1			2	
交渉不足	43 32.8	3		11	6	10	9	3	2	2	1		
関係希薄	4 3.1					1		3					
焦り、不安	38 29.0	1		2	1	10	11	5		1	5		
精神衛生	3 2.3							1					
母の感受性	9 6.9			3		2	1	2					
育児知識	2 1.5							1		1	1		
家族の問題	7 5.3					1	2	1					1
その他	4 3.1			1			1	2					
被該当	57	6	1	16	20	10	3	8	1	-	-	-	-